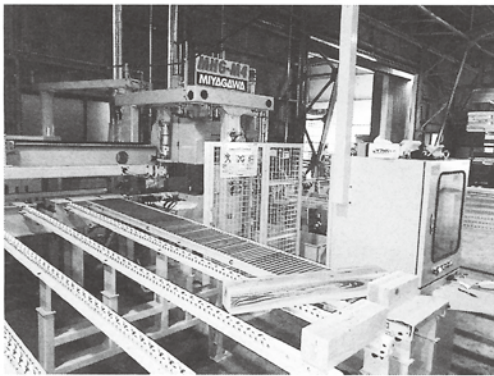


新型柱・東ホゾ加工機が本稼働

加工時間短縮や能力増強で生産性向上

村上木材



プレテックに増設された柱・東加工機

村上木材(大阪市、佐原謙次社長)は、今月に入りグループ会社でプレカット加工を行うプレテック(同、矢山勝司社長)の新型柱・東ホゾ加工機(MHG-M4、宮川工機)を本稼働させた。これにより加工時間を大幅に短縮でき、加工能力も従来の月産5000坪から、約10%増加の5500坪と生産性が向上した。

プレテックの大坂工場に掛かっていた。現場での東加工は、これまで手加工や柱専用加工ラインなどで行っていたが、加工箇所が多いため、加工時間が長いことが多かった。プレテックの大坂工場に掛かっていた。3月に手加工を行っていた社員が定年退職したこともあり、今回の新設備導入に踏み切った。

新型柱・東ホゾ加工機は、最新技術を搭載した高機能な設備で、人を配置せずに自動操業が可能だ。加工内容は、柱・東のホゾ取り加工で単品及び多数本取りができるほか、

すべての面に柱もたせ欠き、まくら欠き、窓台・窓まぐさ欠きも行える。また、パッキン材加工(胴付長が小さい東)が可能で、平ホゾ、半ホゾ、単ホゾ、回転ホゾ、座付きホゾ加工にも対応している。同機は、大阪工場の柱加工機(MP-34、同)の横に設置された。

佐原社長の話 以前まで東加工は、手加工または柱専用加工ラインで行っていたが、新設備を導入して加工を分離させることで生産性が向上した。プレテックの人員は、定年退職により3月に1人辞めたことで19人体制となっている。しかし、新設備は自動で加工するため、人員を増強せずに加工能力も上がった。